

高齢者腰部脊柱管狭窄症に対する内視鏡手術50例

柴山元英¹⁾, 高橋育太郎¹⁾, 川瀬 剛¹⁾, 藤原一吉¹⁾, 川口洋平¹⁾, 太田弘敏¹⁾

近年の人口高齢化により、高齢者の腰椎手術が増加してきた。我々は低侵襲を目指して内視鏡手術を2001年より導入し、2005年より腰部脊柱管狭窄症にも適応を広げ、高齢者にも積極的に応用してきた。今回75歳以上の高齢者の腰部脊柱管狭窄症50例に対する内視鏡下椎弓切除術の成績を検討したので報告する。

対象および方法

2005～2008年に腰部脊柱管狭窄症に内視鏡下椎弓切除術を行い、半年以上経過観察した75歳以上の50例を対象とした。平均年齢78.8歳(75～85歳)、男性20例、女性30例であった。すべり症が10例に、椎間板ヘルニアが5例で合併していた。経過観察は平均12ヵ月(6～36ヵ月)であった。既往歴として高血圧が35例、糖尿病9例、心疾患8例、脳梗塞5例、癌手術歴3例などであった。機器はMETRx system(メドトロニックソファモアダネック社製、メンフィス)を用い、手術は片側進入両側除圧を行った。罹患数は1椎間39例、2椎間8例、3椎間3例であった。罹患レベルはL3/4が4例、L4/5が30例、L3/4/5が7例、L2/3/4/5が3例であとは1例ずつであった。評価はJOAスコア、手術時間、出血量、合併症、術後退院まで日数を用いた。

結 果

JOAスコアは平均14点が23点に改善した。合併症として、術中の硬膜損傷が3例で、術後に筋力低下をきたした例が2例(2例とも2度の分離すべり症)、ヘルニアの再発が1例で見られた。ヘルニア再発例は再手術を行った。退院までは平均14.3日(10～20日)で、全身合併症は特になかった。手術時間は(1椎間あたり)118分(70～230分)、出血量は30.5g(0～300g)であった。JOAスコアは13.4(0～21)点/29点満点→22.7(14～29)点に改善した。

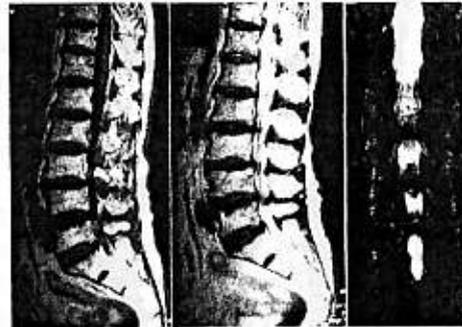


図1 症例1. 75歳男性, 術前MRI

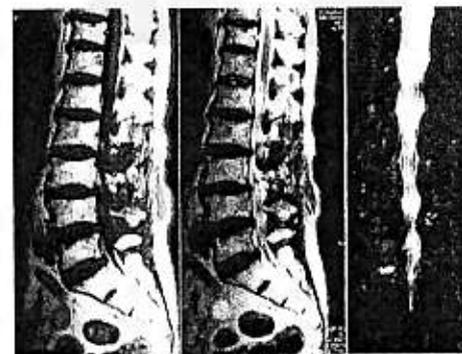


図2 術後MRI

症 例

代表例1: 75歳男性, L2/3/4/5の腰部脊柱管狭窄症. JOAスコア16点. 既往歴: 高血圧. 手術時間259分(3椎間) 出血80g, 術後14日目に退院. JOAスコアは16点→27点に改善した(図1, 2).

代表例2: 78歳女性, L4の分離すべり症. JOAスコア12点. 既往歴として高血圧, 脳梗塞. 手術時間150分, 出血20g. 術後経過は良好でJOAスコアも12

Microendoscopic surgery for lumbar canal stenosis over 75 years old : Motohide SHIBAYAMA et al. (Department of Orthopedic Surgery, Toyokawa City Hospital)

1) 豊川市民病院整形外科

Key words : Microendoscopic surgery, Lumbar canal stenosis, Elderly